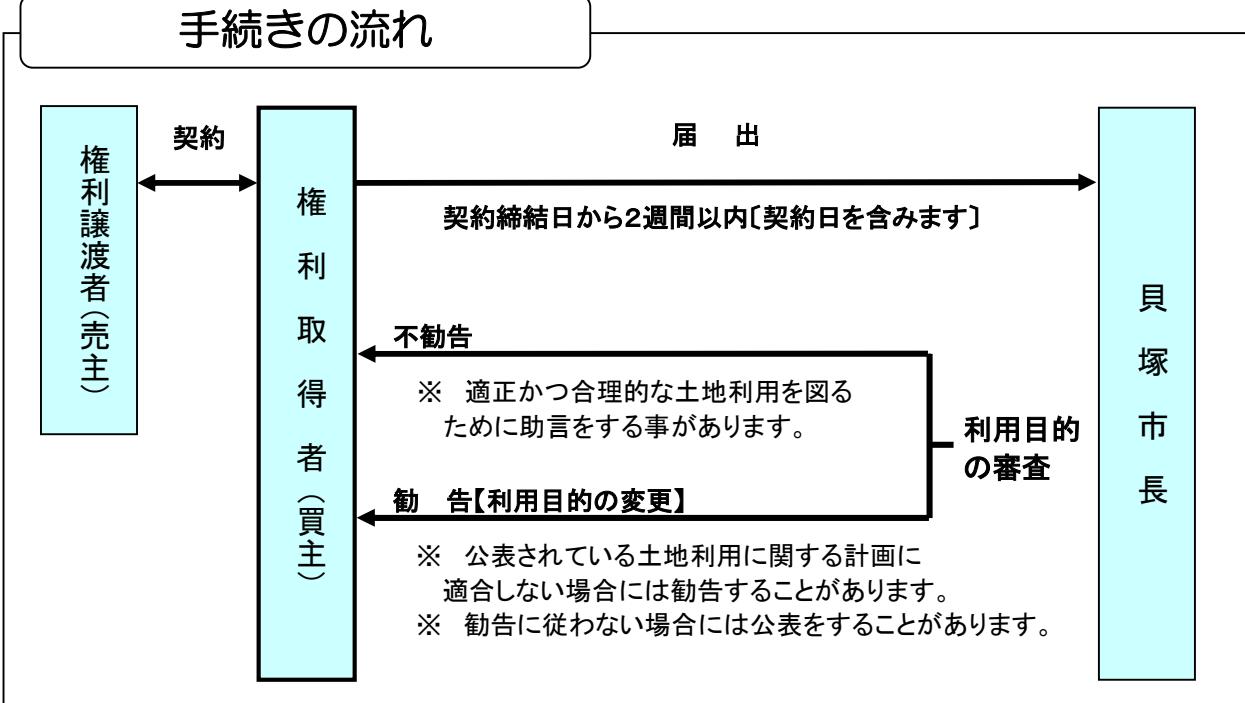


国土利用計画法【事後届出制】の手続き案内

手続きの流れ



※ 届出をした土地が取得後2年を経過しても利用されていない場合には、その土地を「遊休土地」として指定することができます。

届出の必要な土地取引とは

●取引の形態

- 売買
 - 代物弁済
 - 交換
 - 共有持分の譲渡
 - 営業譲渡
 - 地上権・賃借権の設定・譲渡
 - 譲渡担保
 - 予約完結権・買戻権等の譲渡
 - 信託受益権の譲渡
 - 地位譲渡
- (※ これらの取引の予約である場合も含みます。)

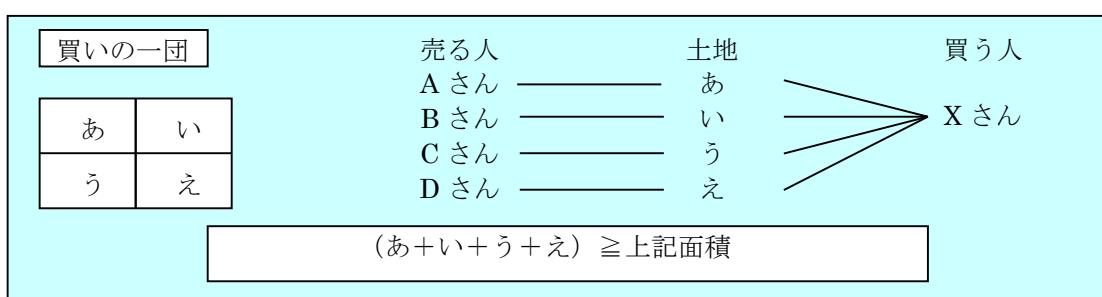
※ 取引のいずれか一方が国や地方公共団体等の場合、滞納処分・強制執行・担保権の実行としての競売の場合、民事調停・家事審判・裁判上の和解等の場合は、届出の適用除外となります。

●取引の規模(面積要件)

① 市街化区域	2,000m ² 以上
② 市街化調整区域	5,000m ² 以上

【一団の土地取引】

個々の面積は小さくても、権利取得者が権利を取得する土地の合計が上記の取引の規模(面積要件)を満たす場合(「買いの一団」)には届出が必要です。



届出の手続き

●届出者

土地の権利取得者(売買の場合であれば買主)

●届出期限

契約締結日から2週間以内(※契約締結日を含みます。初日算入。)

決済日、引渡日、登記日が起算日ではありません!

(例)7月7日に締結した場合
の届出期間(19日が祝日の場合)

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

(例)7月4日に締結した場合
の届出期間(19日が祝日の場合)

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

届出期限
(届出期間の最終日が行政機関の休日の場合、休日の翌日が期限となります。)

●届出窓口

貝塚市 都市整備部 まちづくり課 (市役所5階)

●主な届出事項

- | | |
|---------------|-------------------------|
| ①契約当事者の氏名・住所等 | ④土地に関する権利及び権利の移転の種別及び内容 |
| ②契約締結年月日 | ⑤取得後の土地の利用目的 |
| ③土地の所在及び面積 | ⑥土地に関する権利の対価の額 |

●提出する書類(各1部)

提出書類	内 容
土地売買等届出書	あて名は、貝塚市長となります。
契約書の写し	土地売買等の契約書の写しまたはこれに代わるその他の書類 (信託受益権の移転については、信託設定契約書の写しも必要になります。)
周辺状況図	住宅地図等に、届出にかかる土地の区域を明示してください。 買いの一段である場合は、利用目的に係る全体土地についても明示してください。
土地の形状を明らかにした図面	・実測図面・公図の写し・地積測量図のいずれか
委任状	届出手続きを代理人に委任する場合に必要です。
不動産登記書類	不動産登記書類の交付を希望する場合に提出してください。 郵送を希望される場合は、返信用切手を貼付した定形封筒を提出してください。
その他の	土地区画整理事業の仮換地の場合は、それが確認できる図書

※ 届出書等の様式は、貝塚市まちづくり課のホームページでダウンロードすることができます。

Q & A

【面積要件等に関する質問】

- Q. 公簿面積は届出対象面積未満ですが、実測面積では届出対象面積以上となります。この場合、届出は必要ですか？
- A. 契約の内容により異なります。公簿取引で実測精算を行わない場合は不要ですが、実測精算を行う場合には届出が必要です。また、最初から実測面積で取引する場合も届出が必要です。
- Q. 共有地の譲渡の場合、面積要件の判断は、どの面積を基準にしますか？
- A. 共有地が譲渡される場合の面積要件の判定は、共有地全体の面積に当該譲渡にかかる持分割合を乗じたものによって行います。

例：市街化区域にある全体の土地面積 4,500 m²の土地の

持分 2 分の 1 を譲渡した場合 : 4,500 m² × 1 / 2 = 2,250 m²……………届出が必要

持分 3 分の 1 を譲渡した場合 : 4,500 m² × 1 / 3 = 1,500 m²……………届出が不要

- Q. 市街化区域と市街化調整区域にまたがる土地を取得する場合、どのような取引面積であれば届出が必要となりますか？

A. 市街化区域の面積要件が適用され、全体で 2,000 m²以上の土地取引があれば、届出が必要となります。

【土地売買等届出書に関する質問】

- Q. 届出の対象となる一団の土地が二以上の市町にまたがる場合には、どのような届出をすればよいですか？
- A. それぞれ土地の所在する市町に届出書を提出してください。
- Q. 一団の土地を購入するため、3人の地権者と個別に契約を行いました。届出書は1件にまとめてよいですか？
- A. 契約ごとに届出が必要ですので、3件の届出書を提出してください。
- Q. 共有の場合や土地の筆数が多く、記入欄に収まらない場合、どうすればよいですか？
- A. 別紙に記載の上、届出用紙との間に権利取得者全員の割印をしてください。

【その他の質問】

- Q. 契約締結前に届出が必要となる場合はありますか？
- A. 注視区域及び監視区域に指定されると、その区域内の土地取引については、契約締結前に届出が必要となります。この場合、土地の利用目的に加え、取引予定価格が著しく適正を欠く場合、取引の中止または変更を勧告することがあります。
- Q. 届出をしないと法律で罰せられることがありますか？
- A. 届出をしなかったり、偽りの届出をしたりすると、6ヶ月以下の懲役または100万円以下の罰金に処せられることがあります。(国土利用計画法第47条)

公拡法の届出について

公有地の拡大の推進に関する法律(公拡法)の届出

次の土地を有償で譲渡しようとする場合、国土利用計画法の届出とは別に、契約を締結する前に公拡法による届出を行う必要があります。(手続は土地所有者が行います。)

この制度は、地方公共団体等の公共用地(道路、公園等)の取得を促進するため設けられている制度です。

【届出の必要な土地】

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| ①都市計画施設の区域内の土地 | 200 m ² 以上 |
| ②都市計画区域内の都市計画施設等の土地 | 200 m ² 以上 |
| ③上記以外の都市計画区域内の土地で市街化区域内の土地 | 5,000 m ² 以上 |